

## 2月

ジャンル	配本日	ISBN 978-4-591-	書名	著者	予価	判型	頁数	著者紹介	内容紹介
エッセイ	2月8日	169018	経験 この10年くらいのこと	上田晋也	1,400	四六並製	272	お笑いコンビ・くりいむしゅーの突っ込み担当。1970年、熊本県生まれ。早稲田大学教育学部中退。「世界一受けたい授業」「しゃべくり007」「今夜はナゾトレ」など多数のバラエティ番組でレギュラー出演。その他バラエティ番組の司会としても、鋭い突っ込みあり、爆笑ありの軽妙なトークを披露している。	くりいむしゅー上田晋也による初のオール書下ろしエッセイ！ この10年間、一度も文章を書いていなかった上田氏の日常を綴った、非成長記録。帯にはマツコ・デラックスさんのコメント！この冬、絶対にはげせない一冊。
ビジネス	2月8日	168004	経営の正解はすべて社員が知っている	山室晋也	1,500	四六並製	256	前・千葉ロッテマリーンズ代表取締役。現在はJリーグ清水エスパルス運営会社社長。みずほ銀行時代は4カ所の支店長を経験し、在任17期中15期で総合成績優秀賞を受賞。13年に関連会社の社長となり、その経歴から「リアル・半沢直樹」と言われる。	プロ野球球団・千葉ロッテマリーンズは、2013～2019年の6年で観客動員数を30万人伸ばし、2019年は球団史上初の黒字を達成した。その立役者となったのが、前・球団社長の山室氏。人気がない、やる気も低い、パフォーマンスも低い組織を立て直した山室氏の手法のすべてがここに。すべてのビジネスパーソンにおすすめの一冊。
ビジネス	2月15日	166123	超一流の強運力	安田正	1,500	四六並製	192	企業コンサルタント。主な著書にシリーズ累計90万部を超えた『超一流の雑談力』（文響社）や『超一流できる大人の語彙力』（プレジデント社）などがある。	88万部超「超一流の雑談力」の著者が、「運」の持つ計り知れない力を実体験やデータをもとに初めて明かします。成功者の考え方・行動には、「強運力」という共通するベースがあった！「運がよい」とはどういうことか、コミュニケーションの視点から初めて解き明かす一冊。
文芸	2月8日	169025	天使と悪魔のシネマ	小野寺史宜	1,600	四六上製	248	千葉県生まれ。2006年『裏へ走り蹴り込め』でオール讀物新人賞を受賞。2008年、『ROCKER』でポプラ社小説大賞優秀賞を受賞。著書に『ライフ』『ひと』（2019年本屋大賞2位）『まち』などがある。	運命は変えられないが、多少のアレンジはできる。狙いをつけた人間の行動に絶妙なタイミングで介入する天使と悪魔。あるときは駅のホームで、またはビルの屋上で。「うまいことを言ってるが、君は悪魔なんだろう？」去りゆく日常と異界のブラックユーモアが織りなす、哀歎と衝撃にみちたオムニバス小説の傑作。
文芸	2月8日	169032	ほたるいしまジカルランド	寺地はるな	1,600	四六上製	288	1977年佐賀県生まれ。大阪府在住。2014年『ピオレタ』で第四回ポプラ社小説新人賞を受賞しデビュー。第38回「咲くやこの花」賞受賞。『夜が暗いとはかぎらない』『水を縫う』など著作多数。	大阪の北部に位置する蛍石市にある老舗遊園地「ほたるいしまジカルランド」。「うちはテーマパークではなく遊園地」と言い切る名物社長を筆頭に、たくさんの人々が働いている。従業員は自分たちの悩みを裡に押し隠しながら日々奮闘中。いまもっとも注目の集まる書き手によるお仕事小説の決定版。
文芸	2月15日	169445	和菓子迷宮をぐるぐると	太田忠司	1,600	四六並製	320	81年に「帰郷」で「星新一ショートショート・コンテスト」優秀作を受賞。「少年探偵・狩野俊介」「目白台サイドキック」「名古屋駅西 喫茶ユトリロ」シリーズほか、『奇談蒐集家』『遺品博物館』『猿神』など著作多数。	変わり者と言われる理系大学生・涼太が出会ったのは、あまりに美しい「和菓子」。その「美味しさ」にも魅せられ、すっかり和菓子の虜に。勢いのあまり大学院に進まずに和菓子職人になることを決意し、製菓専門学校に入学してしまった一。和菓子をめぐる、美味しくて元気がもらえる一冊。
文芸	2月15日	169452	うしろむきタ食店	冬森灯	1,600	四六並製	320	第1回おいしい文学賞にて最終候補に選ばれた『縁結びカツサンド』でデビュー。冬森作品のおいしい描写は、読む人をとても幸せにする。本作が二作目になる。	レトロな洋館に、スタンドグラスの嵌め込まれた観音開きの扉。ドアの両側には二つずつの格子窓。そこから見える満月のような照明と、おいしいそうな香りが漂ってきたら間違いなし。そこが「うしろむきタ食店」だ。お店の名物は「料理おみくじ」。いろいろ迷ってしまうお客さんに、意外な出会いを与えてくれると評判だが――。『縁結びカツサンド』で注目を集めた著者による小説第二作目。

## 3月

ジャンル	配本日	ISBN 978-4-591-	書名	著者	予価	判型	頁数	著者紹介	内容紹介
エッセイ	3月8日	169698	家族の味	著 平野レミ 絵 和田誠	1,400	四六判	160	平野レミ：東京生まれ。料理愛好家・シャンソン歌手。主婦として料理を作り続けた経験を生かし、NHK「平野レミの早わざレシピ」などテレビ、雑誌を通じて数々のアイデア料理を発信。また、レミパンやエブロンなどのキッチングッズの開発も手がける。和田誠：グラフィックデザイナー、イラストレーター。74年、講談社出版文化賞ブックデザイン部門受賞。89年ブルーリボン監督賞、94年菊池寛賞、97年毎日デザイン賞、2019年日本アカデミー賞会長特別賞ほか、受賞多数。2019年逝去。	【阿川佐和子さん、清水ミチコさん推薦！】平野レミさんがはじめて料理を作った思い出から、和田誠さんとのなれそめや子育て方針まで、家族と料理への愛情がぎゅっと詰まったエッセイ集。31品のオリジナルレシピに加え、夫・和田誠さんとの対談、阿川佐和子さん、清水ミチコさんとの鼎談も収録。
エッセイ	3月15日	169704	ひとりなら、それでいいじゃない。	曾野綾子	1,200	四六判	240	作家。『遠来の客たち』（筑摩書房）で文壇デビューし、芥川賞候補に。『老いの僥倖』幻冬舎新書、『夫の後始末』（講談社）などベストセラー多数。	さまざまな世代から共感の声、続々！シリーズ累計！4万部突破！穏やかな日常に突然おとずれたコロナ禍。こんな時代だからこそ、孤独を愉しみ、人に頼らず身の程に合わせて生きたい。そんな、コロナ禍とともに生きる新しい指針となる一冊。
文芸	3月8日	169476	広告の会社、作りました	中村航	1,500	四六判	208	2002年『リレキショ』にて第39回文藝賞を受賞しデビュー。続く『夏休み』『ぐるぐるまわるすべり台』は芥川賞候補となる。『ぐるぐるまわるすべり台』では野間文芸新人賞受賞。ベストセラーとなった『100回泣くこと』ほか、『デビクロクんの恋と魔法』、『トリガール！』等、映像化作品多数。	突然会社の倒産を告げられ、無職になったデザイナーの遠山健一。安定した転職先を求めたはずが、飛び込んだ先はコピーライター・天津孔明の個人事務所――まさかのフリーランスだった。いい仕事、いい会社ってなんだろう？若手デザイナーと敏腕（変人）コピーライターのコンビが大会社に挑む！
文芸	3月15日	169001	片をつける	越智月子	1,500	四六判	216	1965年福岡県生まれ。女性誌のライターなどを経て、2006年に『きょうの私は、どうかしている』でデビュー。他に『モンスターU子の嘘』『花の命は短くて』『帰ってきたエンジェルズ』『咲く・ララ・ファミリア』など。	独身の阿紗は、ひよんなことから、隣に住む謎の老婆・八重の部屋の片づけを手伝うことになる。人生で背負いこんだ荷物と厄介ごと。一つ一つ片をつける中で、八重と阿紗が選んだ道とは、切なくも心温まる感動傑作。
ビジネス	3月15日	168998	1シート・マーケティング	田浦 崇典	1,900	四六判	400	「READINGLIFEの提供」をコンセプトに池袋に「東京天狼院」を出店。天狼院書店は現在、全国に11店舗を展開。同書店は「おはよう日本」「あさいち」「モーニングバード」「モヤモヤさまぁ〜ず2」などに取り上げられ、著者本人も『週刊ダイヤモンド』『日経ビジネス』にて書評コーナーを連載。現在注目の実業家。	本書で提唱する1シート・マーケティングとは、とかく難解になりがちなマーケティングの理論を、誰もが習得できる「7つのマーケティング・クリエーション」という理論で紙1枚にまとめた、まったく新しいマーケティング理論。これを習得することによって、世の中のビジネスをマーケティングの視点で読み解けるようになり、自分でもマーケティング戦略を1枚のシートで創り上げることができるようになる！
実用	3月15日	166710	色ほんのスポーツ栄養食	大前恵	1,500	A5判	128	管理栄養士。PR会社勤務、主婦を経て、1999年に明治に入社。プロ野球やサッカーの選手らを栄養面でサポート。野球日本代表「侍ジャパン」やバレーボール女子日本代表などの大会や合宿などにも帯同する。初の著書。	大谷翔平選手、鈴木誠也選手も実践。10代アスリートに必要な食事・栄養の基本。「筋肉をつけてパワーを出したい」「ベストコンディションを維持したい」「ケガを早く治したい」……など、アスリートの悩みや課題を「食事と栄養」で解決できる一冊。
実用	3月15日	169681	コーヒーで学ぶSDGs	川島良彰 池本幸生 山下加夏	1,700	四六判変形	256	川島良彰：ミカフェート代表取締役、コーヒーハンター、日本コーヒー業界の第一人者。池本幸生：東京大学教授、アジアの貧困・経済の専門家 山下加夏：元国際環境NGO職員。現ミカフェート社員	その一杯のコーヒーが、地球の未来を変える！SDGsを実現するために、コーヒーができることとは何か？世界各地のコーヒー農園を巡る3名の著者が実体験や最新データをもとに、コーヒーを題材にSDGsを分かりやすく解説！